

会員企業をたずねる

女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に、業務内容や職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



第48回

株式会社商船三井

技術・デジタル戦略本部 IT・デジタル戦略ユニット ユニット長
ケリー タカノ

Kelly Takanoさん

PROFILE

日系三世としてブラジルに生まれる。ブラジルで船舶工学を学んだ後、日本の大学で物流を専攻。ブラジルに戻り日系素材メーカーに入社。ロジスティクス部門に勤務する。2016年、MOL Liner（香港）に入社。2018年、ONE*に転籍し、シンガポール本社に移る。2023年、商船三井に入社し、本社DX共創ユニットに配属。2024年、同ユニットのユニット長に就任。2026年4月、IT・デジタル戦略ユニット長（現職）に就任。

※ONE(Ocean Network Express Pte. Ltd.):2017年に川崎汽船、商船三井、日本郵船によって設立され、2018年から営業を開始したコンテナ定期船事業の運営会社。

船の魅力から物流の面白さを知る

——入社までの経緯について教えてください。

私のキャリアの原点は、ブラジルで学んだ船舶工学です。巨大な構造物が一つのシステムとして完結し、海の上で自律的に機能する“船”という存在に強く引かれ、その道を選びました。その後、日本の大学で海洋・船舶工学を専攻したのですが、研究を進めるうちに、海運・物流という産業全体の仕組みに興味が広がっていきました。また、卒業後は、ブラジルで日系の鉄鋼会社で物流プロジェクトに携わり、サプライチェーンの複雑さやダイナミズムに触れ、物流の面白さを実感しました。その後、MOL Liner（香港）、そしてONEでの経験を経て、2023年に当社に入社しました。

——御社でのキャリアを教えてください。

入社時は本社DX共創ユニットでデジタル関連の企画を担当し、1年半後、ユニット長に任命されました。今年4月からはIT・デジタル戦略ユニット長としてユニット全体を率いています。全社のデジタル戦略の企画および遂行をミッションとし、各事業部と連携しながら、長期経営計画に沿って業務効率化や新しい価値創出につながる施策を進めています。海運は現場の経験が非常に重要なので、デジタル化も現場の理解なしには進みません。当ユニットは「技

術」と「現場」をつなぐ役割も担っていることを意識しています。

——マネジメントで心がけていることを教えてください。

ダイバーシティ環境では、文化や価値観が異なることが前提です。だからこそ、私は「オープンダイアログ」を最も大切にしています。日本特有の「空気を読む」「前例にならう」といった文化は、海外では通用しません。むしろ誤解を生む原因になります。そこで、私は必ず背景まで言語化し、曖昧さを残さないようにするとともに、部下が安心して意見を言える環境づくりに力を入れています。多様な視点が集まることで、より良いアイデアが生まれるからです。

——日本企業で働くうえで、戸惑いを感じることはありますか。

意思決定までのプロセスが長いことです。事前調整が多く、ダイレクトに決まらない点は戸惑いました。ただ、全員が納得して進めるという日本企業ならではの良さもあります。「スピード感を損なわず、かつ関係者の合意も得る」という進め方を模索しています。

多様な人材が活躍できる環境が未来をつくる

——仕事のやりがいを教えてください。

企画から導入、運用までの一連のプロセスを、自分の目で見届けられる点が大きな魅力です。小さな改善でも大きなインパクトを生むことがあり、成果が目に見えやすいのもやりがいにつながっています。また、幼い頃から船に魅力を感じていたので、関連業界で働けていること自体がモチベーションになっています。

——現在の課題やチャレンジしていることはありますか。

社員の皆さんにDXの価値を理解してもらうことが最大の課題です。ITに苦手意識を持つ社員も多いので、「なぜ必要なのか」「自分たちの事業にどう役立つのか」を丁寧に説明することも重要です。関連部署とのコミュニケーションを密にし、DXを自分事として理解してもらうことが、成功の鍵だと考えています。

——ワークライフバランスについての考え方を教えてください。

休むことで視野が広がり、仕事の質も上がるため、オンとオフの切り替えは重要視しています。また、自分が率先して休むことが部下へのメッセージ



充実したオフタイムでリフレッシュ！

になると考え、クリスマスなどには2週間休むこともありますし、夜や週末はメールも返信しません。上司が働くと部下も働かざるを得なくなるため、「休んでいい」という文化をつくることを意識しています。私自身も休日は旅行、ポートやサイクリングなどでアクティブに過ごしてリフレッシュします。

——今後の抱負を教えてください。

外国人・女性でも管理職になれるというロールモデルになりたいです。また、よりグローバルなプロジェクトに挑戦し、会社の変革に貢献したいと考えています。海運は世界をつなぐ産業です。だからこそ、国籍や性別に関係なく、多様な人材が活躍できる環境をつくるのが、会社の未来にもつながると信じています。

——ありがとうございました。

※インタビューは英語で行われました。

会社概要

株式会社商船三井 (Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.)

設立：1884年

本社：東京都港区虎ノ門2丁目1番1号

代表者：社長執行役員 チーフ・エグゼクティブ・オフィサー 田村城太郎

従業員（当社単体）：1,329名（陸上976名 海上353名）

グループ会社数：579社（連結子会社および持分法適用会社）

グループ会社従業員数：10,500名（当社および連結子会社）

グループ運航船舶規模：935隻

（2025年3月31日時点）

【事業概要】

商船三井は、企業理念「青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来をひらきます」の下、海運業を中心に様々な社会インフラ事業を展開し、環境保全を始めとした変化する社会のニーズに技術とサービスの進化で挑む。商船三井は全てのステークホルダーに新たな価値を届け、グローバルに成長する強くしなやかな企業グループを目指します。2023年、グループ経営計画「BLUE ACTION 2035」を制定。Phase 1の3年間に続き、2026年度からはPhase 2の5年間が始まった。



本社ビル